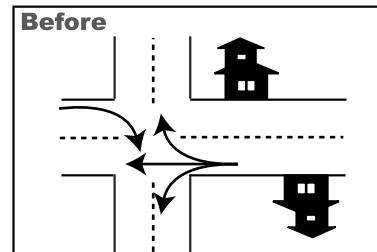


# 道路整備の遅れはインフラコストを高める

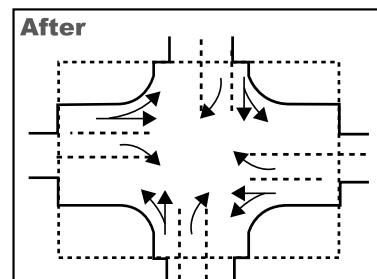
## 交差点の重点整備で渋滞解消

**Q. 三宅隆介** 交差点の重点整備は昨年、鈴木副市長から前向きな答弁をいただきました。その後、この手法を実際に取り入れていますか？

**A. 建設局長** 三宅市議の考え方に基づき、限られた財源の中で、早期にその効果が出るよう整備手法を取り入れています。主要道路が交わる市ノ坪、小杉十字路など現在4箇所の交差点整備を優先的にすすめています。



従来の事業手法は交差点から交差点までひとつの事業区間でした。しかし、この場合、わずかでも未整備地が残ってしまうと、交通流が円滑化しません。



「交差点から交差点まで」の発想を捨て、交差点そのもののへの重点投資で右・左折レーンを確保し、まず渋滞解消を。

## 三宅隆介の視点

道路には、交通機能のほか、防災機能、公共公益施設の埋設、日照緑地などの空間機能があります。また、多くの社会資本の中でも、道路は最も根源的な社会資本です。道路整備が遅れれば、下水道工事やガス管工事も思うように進まず、結果としてインフラ整備のトータルコストが高くなってしまいます。

今回、私の提案した交差点の重点整備が川崎市内の4カ所で具体的に採用されました。しかし、もっとも整備の遅れている多摩区、麻生区においては、未だ実施されていません。今後とも多摩区、麻生区においても、こうした手法が採用されるよう、議会の中で提言してまいります。

## 私立に通う児童にも防犯ブザーを

**Q. 三宅隆介** 公立小学校の1年生から3年生までに配布している防犯ブザーを、私立に通う川崎市民の児童にも配布すべきだと思いますが？

**A. 教育長** いくつかの課題もあり検討します。

## 三宅隆介の視点

防犯ブザーだけで必ずしも子どもたちの安全を守ることはできません。しかし、公立、私立を問わず平等に行政サービスを提供することは、公平な税の再配分の観点からも大事なことです。また、「防犯ブザー」「サスマタ」「インターホン」はいわば学校防犯の三種の神器のようなもので、火星にロケットが飛ぶ時代には、もう少し文明的な手法を考えるべきです。例えば、携帯メール、インターネットを利用したシステムの活用等で家庭と学校との距離をもっと近づけていくべきです。

## 学校情報の公開を

**Q. 三宅隆介** 過日、東京の府中市の公立学校において、いわゆる南京事件についての誤った記述が補助教材に掲載され授業で使用されていました。その後、府中市議会で取り上げられ訂正されたと仄聞しています。こうした補助教材（自主プリント）は、現場の先生の裁量で作成され使用されていますが、本市における自主プリントのチェック体制はどうなっているのか？

**A. 教育長** 小学校では学年会、中学校では教科会等で検討された上、活用されています。

## 三宅隆介の視点

教育長の答弁では、開放的な授業参観が可能のように聞こえますが、実際にはほとんど実績がなく制度と実態には大きな隔たりがあります。行政の情報公開の中には、当然ながら教育行政も含まれています。児童、生徒、保護者に学校を選ぶ基本的な権利がない本市においては、教育現場の透明性の確保にいっそうの努力を払うべきです。